「故郷（ふるさと）の海レスキュー隊計画 2017」

活　動　報　告　書

■主　　催：　海守さぬき会
■助成協力：　一般財団法人　みなと総合研究財団
この活動は、みなと総研の「平成 29 年度未来のみなとづくり助成」を受けて開催致しました。
■実 施 日：平成２９年８月１９日（土曜日）
■実施場所：高松沖男木島周辺海域及び男木大井海水浴場、男木コミュニティセンター会議室
■参 加 者：高松市立第一中学校　１年生２４名・２年生２０名・教職員３名　計４７名
海守さぬき会スタッフ１０名　**総勢５７名**
■活動目的：香川県の海岸は閉鎖性海域である瀬戸内海の東部海域に位置し、沿岸の各地域から海域へ流入する多種多様なごみは、海面を漂流するごみや海底に沈み堆積するごみ、海岸に漂着・散乱するごみとなり、景観や環境の悪化、海岸機能や海洋資源の低下等が生じ、その対策を講じる事は、瀬戸内海の良好な景観・生物多様性保全や注視されているマイクロプラスチック問題等の観点から重要な課題となっており、ごみをできるだけ出さない様にする事が重要です。
　その対策の一つとして、草の根活動として県内小中学生を対象とした、海ごみ発生抑制に係る体験型環境学習会を開催し、「自分達の海は、自分達で守るんだ！」と云う意識を持続的に持ってもらう事と、故郷の海の自然環境を守るリーダー等の人材育成を図ることが目的です。
■活動内容：

＜高松市立第一中学校　午前 8 時 20 分集合＞

＜故郷の海レスキュー隊結団式　中條隊長挨拶＞

＜午前９時　高松港第２桟橋よりレスキュー隊出航＞

① 高松沖男木島周辺海域での東瀬戸漁業協同組合所属漁師の底曳網漁を海上タクシーより視察・見学し、海底堆積ごみと漂流ごみの実態を学習しました。

＜東瀬戸漁協協同組合所属　視察・見学協力漁船　底引網漁操業風景＞

＜海上タクシーより操業中の底引網漁を見学：午前９時３０分＞

＜男木漁港岸壁に接岸の底引網漁船を岸壁から再度見学する隊員＞

＜漁獲内容を解説の中條隊長＞

＜今日の獲物はタコとタイと空き缶とペットボトルでした＞

② 男木大井海水浴場での漂着ごみ一斉清掃を実施・体験し、海岸漂着ごみの実態を学習しました。

＜海岸一斉清掃要領の説明を受けて清掃開始する隊員：午前１０時３０分＞

＜男木大井海水浴場の砂浜の巾 40m×長さ 300m　猛暑の中で頑張る隊員＞

③ 同時にマイクロプラスチック抽出実験用海砂を採取しました。

＜海砂を採取する隊員と隊長＞　＜4mmメッシュの篩でごみと海砂を分離＞

＜一斉清掃の収穫はペットボトル、空き瓶、空き缶等・・・総量約１㎥／約 70ｋｇでした＞

＜「故郷の海レスキュー隊員４４名」頑張ったよ～！＞

④ 男木コミュニティセンターに於いて、マイクロプラスチック抽出実験を体験すると共に、海ごみ問題の総合的座学学習会を開催致しました。

＜午後の学習会開始　午後０時２０分＞

＜午前中の海底ごみ・海岸漂着ごみの
体験学習を基に講演する中條隊長＞

■マイクロプラスチック抽出実験開始：午後１時１０分

＜飽和食塩水を作っています＞

＜海岸での採取砂を投入、良くかき混ぜます＞

＜4mm以下がマイクロプラスチックと云われています＞

＜1mm以下の採取は少し難しいな～＞

⑤ 座学講義終了後、グループ別（１３班）意見交換会とグループ別意見発表会を開催致しました。＜午後１時５０分＞

＜意見交換会の進め方を説明する＞

＜各班代表者が意見発表＞

＜最後に夏休みの思い出！クルージング＞

＜午後３時３０分学校帰着＞

＜レスキュー隊解団式＞

＜今日１日お疲れ様でした＞

以　上